

2010年(平成22年)7月14日(水曜日)

調剤薬局のアルファーム



店舗では薬の販売だけでなく、食事・運動指導もする
(日立市)

調剤薬局のアルファーム(水戸市、柿崎正輝社長)は群馬県、栃木県での出店を拡大する。今年5月に開業した栃木県野木町の店舗に続き、年2~3店のペースで新規出店する方針だ。両県は茨城に比べて、薬局が調剤を担う「医薬分業」が遅れているが、今後、進むと判断。北関東全域で本格出店する。

現在、北関東3県に計21店舗を展開する。昨年

7月、群馬県太田市の調剤薬局を吸収する形で群馬県内に初出店した。群馬では栃木に近く、北関東自動車道の開通で交通アクセスが向上した太田市周辺を中心に出店を検討する。同社の新型店は建物面積が170平方メートル前後と、ほかの調剤薬局に比べ1~2割ほど大きさが大きい。

アルファームの出店状況
(注)マル数字は店舗数



きいといふ。
日本薬剤師会(東京・新宿)の調べによると、2010年1月に医師が処方した件数に対して、調剤薬局が受け付けた件数の割合は茨城県内が66%に対し、栃木県では54%、群馬県では47%。全国平均の62%を下回る。ただ、栃木、群馬とも着実に増えており、「6月後半まで伸びる余地

2010年3月期の売上高は約45億円。

群馬・栃木で出店拡大

年2~3店、病院周辺に

がある」(柿崎社長)と考えた。主に地元の中堅・中小病院などと連携し、病院の周辺で出店する。同社は不足する薬剤師の確保のため、社員持ち株制度を導入し、安定的に配当している。このほか、日本薬剤師会などが開く学術大会に従業員を派遣し、日々の研究成果を発表する機会を設けるなど、従業員が技術力を高めることのできる環境を整える。アルファームは1997年の設立。